

高分子ゲル微粒子の応用による 飽くなき新商材の追求

事業内容

高分子ゲル微粒子の応用製品企画から生まれた 芳香関連商品を展開

EAPゲルは、大阪府立産業技術総合研究所が保有する特許技術を深化させた、両親媒性、比表面積が大きい(100m²/g)、有機多孔質微粒子がネットワーク化した構造体という基本特性を持っている。このEAPゲルに天然製油をはじめ、調合香料、香水などを注入すると、かき混ぜるだけで加熱せず粘稠なゲル状となり、樹脂や増量剤などと合わせて粘着芳香剤や芳香剤が完成する。現在は、家庭用の芳香剤として販売されているほか、EAPゲルを原料としてフィルターメーカーに納品されている。

同社は顧客からの問い合わせに応じてさまざまな試作を重ね、近時では「安眠アロマスポンジシート」を開発。100%天然精油がジェルになる安定性の高いEAPゲルを使用することで香りが既製品と比べて長持ちする特長があり、家庭用芳香剤として販売数量の増加が期待される。

同社製品の強みは、一般的なゲル化剤では加熱が必要であるのに対し、EAPゲルは加熱を必要としないことから揮発成分を無駄に揮散させず、高含量のゲルが作製できる。さらに樹脂との混和性が高い点も評価されている。

補助事業

介護・医療分野での芳香剤を利用した ストレス軽減商品を考案

介護の現場などでは臭いによるストレスが問題となっており、これを解決すべく、ゲル微粒子を調合した芳香性粘着剤を用いて、利便性のあるリタックシール等の粘着シートを試作。香気成分の徐放により、介護・医療などの分野での臭いに対するストレスを緩和する事業展開を狙った。

その他、押しピンの落下が気になる場所(介護ベッドの周囲など)の安全面に配慮した製品として、ゲルタックの販売も始めている。

芳香剤の分野では、「香りを身に着ける(持ち歩く)」という意味のウェアラブル・アロマセラピーにも力点を置いている。匂いが記憶を呼び起こすとの研究もあることから、さまざまな分野の研究成果を結びつけるかたちで、介護分野でのウェアラブル・アロマセラピーの普及を促進していきたいとしている。



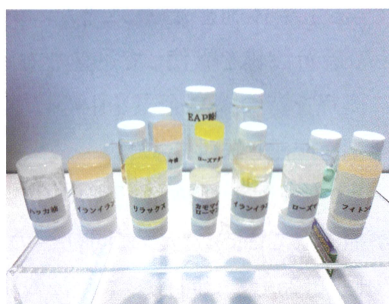
成果

失敗を繰り返すなかでの
新たな可能性の発見

当初期待を寄せていた介護分野での粘着シートの販売は、価格面が折り合わないことなどからやや苦戦を強いられている。他方では在宅介護の増加を背景として、香りを身に着けるウェアラブル・アロマテラピーに注力している。

ゲルを利用することで日常生活の中で使用するさまざまな日用品に香りをつけることができるため、次々に新たな可能性を見出している。

近隣企業や人脈を活用しながら試作品段階まできているものはあるが、小ロットのものでは価格面で折り合わず製品化を断念せざるを得ないケースもあるという。具体的な売上につながるまでは今しばらくの時間を要することとなるかもしれないが、代表取締役・谷稔夫氏の知的好奇心は旺盛であり、新商材の開発に向けて飽くなき挑戦が続くだろう。



今後の展開

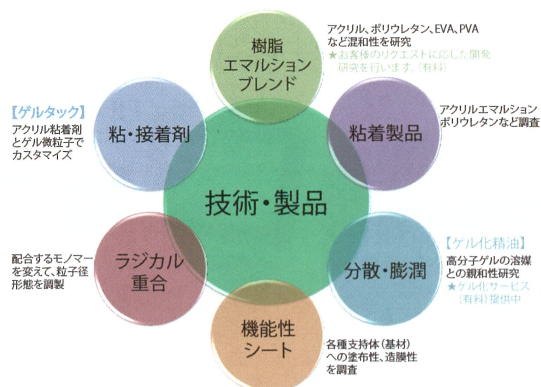
対象マーケットのさらなる拡大
ラインナップの拡充

今後の展開としては、匂いが脳を活性化するという研究成果を取得した後、介護・医療分野に向けてウェアラブルセラピーを広めていきたい考えである。

介護・医療分野以外では、自動車に関わるアメニティー関連商材の開発を進め、将来的にはエンターテインメントがより進化していくことを想定して、ゲルを応用させた製品を開発していく予定だ。

紙、不織布、合皮などと貼り合わせ、表面にコーティングして香りをつけるなど幅広い分野に応用が可能であることから、医療・介護分野に限定せずにバイオ燃料電池など対象マーケットの拡大を目指す。

ラインナップに関しては、顧客からの要望によって随時オーダーメイド製品には対応しているものの、既製品としては3種類程度であるため、ゲルタックや安眠アロマシートに続くさらなるラインナップの拡充に努めていく考えである。



代表取締役 谷 稔夫

新素材の高分子ゲルに惹きこまれ、21世紀の環境負荷が小さく、持続的社会的構築につながるような応用研究と用途開発に没頭してきました。

ものづくり補助金の制度利用がタイミングよく獲得できたことが、製品化への大きなステップとなりました。

弊社の技術を利用すると香り成分を保持し、樹脂等と混和させることで、成型性と香りの持続性を実現することができました。

今後ともイノベーション・シップの魅力にあふれた新製品開発に貢献してまいります。

EFLIGO 株式会社

代表取締役 谷 稔夫

八尾市松山町2-12-20

TEL : 072-997-9915

〈資本金〉500千円

〈従業員〉1人

<http://www.efligo.com/>